

問1 中部地方の地形の特徴を説明した文章として、飛騨山脈・木曾山脈・赤石山脈の3つの山脈の関係性が正しく述べられているものを選びなさい。

(2024年 長野県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈の3つを合わせて日本アルプスと呼び、長野県を囲むように位置している。 | 2. 東北地方から続く奥羽山脈が長野県に入ると、飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈の3つに枝分かれする。 | 3. 飛騨山脈と越後山脈の間に赤石山脈が位置しており、これらは北アルプスと呼ばれている。 | 4. 木曾山脈と赤石山脈は関東地方に位置し、飛騨山脈だけが長野県に位置している。 |
|---|---|--|--|

問2 中部地方の太平洋側に広がる中京工業地帯および東海工業地域について述べた文として、正しいものはどれか。(2015年 大分県公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 静岡県の浜松市などで、オートバイや楽器の製造、精密機械工業が盛んに行われている。 | 2. 岡山県倉敷市の水島地区などに大規模な石油化学コンビナートが形成され、原料の輸入に依存している。 | 3. 北九州市を中心に官営の製鉄所が建設されたことで発展し、現在も鉄鋼業が中心である。 | 4. 千葉県から茨城県にかけての臨海部において、大規模な掘り込み港を中心に重化学工業が発達した。 |
|---|--|---|--|

問3 福井県において、北陸新幹線の延伸開業に向けた整備が進められている主な背景や目的として、最も適切な説明はどれですか。(2020年 東京都公立入試 類似)

- | | | | |
|---|---|--|--|
| 1. 高速輸送ネットワークを構築し、関東や近畿などの大都市圏との移動時間を短縮して交流を促すため。 | 2. 貨物列車の専用路線を確保することで、農産物や工業製品の長距離輸送コストを大幅に削減するため。 | 3. リニア中央新幹線の代替路線として、世界最速の時速500kmでの営業運転を実施するため。 | 4. 在来線の特急列車をすべて廃止し、県内の移動を新幹線のみ限定して運営の効率化を図るため。 |
|---|---|--|--|

問4 愛知県の渥美半島は、かつては水不足に悩まされる地域でしたが、ある大規模な用水路が整備されたことで、日本有数の農業地帯へと発展しました。この地域に供給され、施設園芸農業の発展を支えている用水の名称として正しいものはどれですか。(2026年 高山公立入試 類似)

- | | | | |
|---------|---------|---------|---------|
| 1. 豊川用水 | 2. 愛知用水 | 3. 明治用水 | 4. 香川用水 |
|---------|---------|---------|---------|

問5 日本の工業統計において、長野県の製造品出荷額等の内訳を説明した資料を想定します。県内の出荷額で第1位となっている産業と、その産業が内陸部である長野県で発達した理由の組み合わせとして、最も適切なものを選択してください。(2018年 富山県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 電子部品・デバイス：高速道路網の整備と、精密加工に適した清涼な空気や水、高度な技術の蓄積があったため。 | 2. 食品：広大な盆地を利用した大規模な稲作と、沿岸部からの魚介類の加工が伝統的に行われてきたため。 | 3. パルプ・紙：豊富な森林資源を背景に、江戸時代から続く伝統的な製紙技術が近代化されたため。 | 4. 輸送用機械：大型船舶での輸出に便利な広大な港湾設備が整備され、原材料の輸入が容易であるため。 |
|--|--|---|---|

問6 石川県の工業出荷額において、電子部品・デバイス工業や食料品製造業が一定の割合を占めている背景として、最も適切な説明はどれですか。

(2024年 静岡公立入試 類似)

- | | | | |
|---|--|---|--|
| 1. 電子部品の製造に必要な清浄な水や空気が確保しやすく、伝統産業で培われた技術が機械工業に応用されたため | 2. 大規模な自動車工場が集積しており、その関連部品を供給する輸送用機械器具製造業が中心となっているため | 3. 太平洋ベルトの臨海部に位置し、海外から輸入した原油や鉄鉱石を加工する重化学工業が発達したため | 4. 広大な平野を活用した大規模農業が展開され、出荷額のほとんどを農産物の加工品が占めているため |
|---|--|---|--|

問7 長野盆地周辺の様子を描いた地形図において、長野駅北西の山裾にある平柴地区には「円の中に点が打たれた地図記号」が多数分布しています。この記号が表す土地利用の名称と、都市の街路や建物の様子を詳細に把握するために用いられる大縮尺の地形図の縮尺の組み合わせとして、適切なものを選びなさい。(2018年 神奈川県公立入試 類似)

- | | | | |
|-----------------|---------------|-----------------|--------------------|
| 1. 果樹園と1万分の1地形図 | 2. 田と1万分の1地形図 | 3. 果樹園と5万分の1地形図 | 4. 広葉樹林と2万5千分の1地形図 |
|-----------------|---------------|-----------------|--------------------|

問8 静岡県の農業の特色について、茶とみかんの生産状況や地理的背景をふまえて説明したものとして、最も適切なものはどれですか。(2020年 滋賀公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|---|---|
| 1. 日本一の茶の生産量を誇るほか、温暖な気候や傾斜地を活かしたみかんの生産でも全国的に高いシェアを占めている。 | 2. 茶の生産量は全国一位であるが、みかんの生産は寒冷な北部山間部に集中しており、全国的なシェアは低い。 | 3. 茶の生産量は全国上位であるが、みかんの生産に関しては四国地方や九州地方に次ぐ規模であり、全国シェアは一割に満たない。 | 4. 明治時代に開拓された牧之原台地でみかんの栽培が始まり、現在は茶の生産を上回る主要な産品となっている。 |
|--|--|---|---|

問9 中部地方の発電所の分布について述べた次の文のうち、山間部を流れる河川の流域に多く見られる発電所の特徴と、その立地理由の組み合わせとして最も適切なものはどれですか。(2025年 和歌山公立入試 類似)

- | | | | |
|--|--|--|--|
| 1. 水力発電所であり、険しい地形による落差と豊富な水量を利用するため、内陸の河川沿いに建設されている。 | 2. 火力発電所であり、燃料となる石炭や液化天然ガスを山地で採掘し、そのまま発電に利用するため内陸に建設されている。 | 3. 原子力発電所であり、事故が起きた際の影響を抑えるために、人口が少ない山間部の河川沿いに建設されている。 | 4. 地熱発電所であり、中部地方の山岳地帯に広がる火山活動による熱エネルギーを直接利用するために建設されている。 |
|--|--|--|--|

問10 中部地方の各県の特色について述べた次の文のうち、農業生産の統計において米の割合が57.0%と非常に高い県(新潟県など)や、野菜の割合が33.9%に達する県(長野県など)が含まれる地域の、気候と農業の関係を説明したものとして最も適切なものはどれですか。(2021年 福岡県公立入試 類似)

- | | | | |
|--|---|---|---|
| 1. 日本海側の平野部では稲作が盛んに行われる一方で、内陸の標高が高い地域では1月の平均気温が氷点下になるような冷涼な気候を活かした野菜栽培が行われている。 | 2. 太平洋側の温暖な気候を活かして、冬でも温暖な環境で野菜を育てる促成栽培が盛んであり、大消費地である都市部へ向けて出荷されている。 | 3. 広大な平野部において、大型の機械を導入した効率的な生産体制を整えることで、小麦やてんさいなどの畑作と大規模な酪農が組み合わせられている。 | 4. 夏に雨が少なく乾燥する気候に対応するため、ため池を多く設置することで農業用水を確保し、古くから米作りと果樹栽培を両立させている。 |
|--|---|---|---|

問11 新潟県や富山県といった北陸地方の県における、土地利用の統計的な特徴について述べた文として、正しいものはどれですか。耕地面積全体に占める「田」と「畑」の割合に着目して答えなさい。(2017年 千葉県公立入試 類似)

- | | | | |
|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 耕地面積のうち、田の占める割合が80%を超える非常に高い水準にある | 2. 耕地面積のうち、田と畑がほぼ50%ずつで、混合農業が盛んである | 3. 都市化が進んでいるため、田の面積は耕地全体の30%以下に留まっている | 4. 果樹園などの畑地利用が中心であり、田の面積は10%未満である |
|--------------------------------------|------------------------------------|---------------------------------------|-----------------------------------|

答え合わせ・解説

問1	答え 1 飛騨山脈、木曾山脈、赤石山脈の3つを合わせて日本アルプスと呼び、長野県を囲むように位置している。	日本アルプスは長野県を中心に、岐阜県や山梨県、静岡県などにまたがって分布しています。北から飛騨、中央に木曾、南に赤石の順で並んでおり、これらはプレートの衝突による強い圧力によって隆起して形成されました。奥羽山脈は東北地方の山脈であり、越後山脈は新潟県方面の山脈であるため、日本アルプスには含まれません。
問2	答え 1 静岡県の浜松市などで、オートバイや楽器の製造、精密機械工業が盛んに行われている。	東海工業地域は静岡県を中心とした地域を指し、浜松市の楽器やオートバイ、磐田市の輸送機械、富士市の製紙業など、多様な加工組立産業や伝統的な地場産業が発展しているのが特徴です。他の選択肢は、瀬戸内工業地域、北九州工業地帯、鹿島臨海工業地域の記述です。
問3	答え 1 高速輸送ネットワークを構築し、関東や近畿などの大都市圏との移動時間を短縮して交流を促すため。	北陸新幹線の福井・敦賀方面への延伸は、すでに開業している金沢方面からのネットワークを広げ、東京などの首都圏や関西圏・中京圏とのアクセスを劇的に改善することを目的としています。これにより、観光客の誘致促進、ビジネスの効率化、さらには災害時の代替ルートとしての機能確保など、地域経済の活性化と国土の強靱化が期待されています。
問4	答え 1 豊川用水	渥美半島はもともと大規模な河川がなく水不足に悩まされていましたが、1960年代に豊川用水が完成したことで、安定した農業用水の確保が可能になりました。これにより、温室を利用した施設園芸農業が急速に発展しました。なお、愛知用水は知多半島、明治用水は安城市周辺（西三河平野）を流れる用水です。
問5	答え 1 電子部品・デバイス：高速道路網の整備と、精密な加工に適した清涼な空気や水、高度な技術の蓄積があったため。	長野県の工業は、かつての蚕糸業から精密機械工業、そして現在の電子部品・デバイス工業へと変遷してきました。電子部品は高付加価値で軽量であるため、港湾から離れた内陸部でも高速道路網を活用して効率的に出荷できるという利点があります。選択肢にある食品やパルプ・紙、輸送用機械は、いずれも長野県において電子部品・デバイスを上回る主要産業にはなっていません。
問6	答え 1 電子部品の製造に必要な清浄な水や空気が確保しやすく、伝統産業で培われた技術が機械工業に応用されたため	石川県では、輪島塗や九谷焼といった伝統工芸で培われた「ものづくり」の精神や技術が、精密機械や電子部品の分野に応用されてきました。電子部品の製造には高度な技術と清浄な環境（水・空気）が求められるため、北陸の豊かな自然環境が産業の発展を支えています。愛知県のような輸送用機械への過度な集中が見られない点が、統計上の大きな特徴です。
問7	答え 1 果樹園と1万分の1地形図	円の中に点が打たれた地図記号は、リンゴやナシなどを栽培する果樹園を表しています。また、1万分の1地形図は、一般的な2万5千分の1や5万分の1の地形図よりも大きな縮尺（大縮尺）で描かれており、都市部の建物や街路の形状をより詳細に表示するのに適しています。長野盆地の縁辺部では、こうした詳細な地図によって果樹園と市街地の境界が明確に読み取れます。
問8	答え 1 日本一の茶の生産量を誇るほか、温暖な気候や傾斜地を活かしたみかんの生産でも全国的に高いシェアを占めている。	静岡県では、明治維新後の土族授産などによって開拓された牧之原台地が日本最大級の茶産地となりました。これに加えて、黒潮の影響を受ける温暖な海岸沿いの傾斜地が日当たりを好む果樹栽培に適しているため、みかんの生産においても全国屈指のシェアを誇っています。
問9	答え 1 水力発電所であり、険しい地形による落差と豊富な水量を利用するため、内陸の河川沿いに建設されている。	中部地方は「日本の屋根」と呼ばれる3000m級の山々が連なる険しい地形を有しており、そこから流れる河川は急流で水量も豊富です。この自然条件を活かして、内陸の山間部には多くの水力発電所が建設されてきました。一方、火力発電所や原子力発電所は、大量の冷却水が必要であることや、燃料の輸入に便利なことから、主に沿岸部に立地しています。
問10	答え 1 日本海側の平野部では稲作が盛んに行われる一方で、内陸の標高が高い地域では1月の平均気温が氷点下になるような冷涼な気候を活かした野菜栽培が行われている。	中部地方は、日本海側の新潟県などで広大な平野と雪解け水を活かした米作りが非常に盛んです。一方で、長野県などの内陸部は標高が高く、冬の気温が氷点下（-0.6度など）になるほど厳しい寒さとなります。この「冷涼な気候」は夏場でも涼しいため、他の地域が暑くて出荷が難しい時期にレタスやキャベツなどの野菜を栽培・出荷する高冷地農業に適しています。
問11	答え 1 耕地面積のうち、田の占める割合が80%を超える非常に高い水準にある	北陸地方は日本を代表する米どころであり、特に新潟県などの統計を見ると、耕地面積の大部分を田が占めていることがわかります。具体的には、耕地全体のうち80%以上が田となっており、これは冬の積雪の影響で裏作（冬の間別の作物を育てること）が難しく、米の単作地帯として発展してきた歴史的・気候的な背景が影響しています。